

1 計画期間

令和3年度（2021年度）～令和7年度（2025年度）の5年間

2 琵琶湖の保全および再生に関する方針

※太字+下線部分は主な改定予定箇所

【趣旨】

- 国民的資産である琵琶湖を健全で恵み豊かな湖として保全および再生を図るため、平成27年9月に琵琶湖の保全及び再生に関する法律が公布、施行され、これを受け、平成28年4月に国において琵琶湖の保全及び再生に関する基本方針が定められた。この基本方針を勘案して、滋賀県は本計画を策定し、琵琶湖保全再生施策を実施。
  - これまでの取組の結果、琵琶湖の水質については改善傾向が見られるものの、生態系については在来魚類の減少や水草の大量繁茂、外来動植物の侵入・定着など依然として取り組むべき課題が残されている。
  - また、本計画策定後、プラスチックごみ問題の顕在化や、気候変動の影響として懸念されている琵琶湖北湖の全層循環の未完了とそれに伴う北湖深層の貧酸素状態の長期化や、植物プランクトンの特異的な増殖等、琵琶湖だけでなく琵琶湖下流域にも影響を与えかねない課題も発生。
  - こうした状況の中、計画期間が令和2年度で終了することから、琵琶湖の状況や施策の実施状況、その他の変化等を踏まえ、滋賀県および県内市町が多様な主体の参加と協力を得て琵琶湖保全再生施策を総合的かつ効果的に推進するため、本計画を改定。
- 【目指すべき姿】
- 多くの固有種を含む豊かな生態系や生物多様性を守り、琵琶湖とともにある人々が豊かな暮らしを営み、さらには、琵琶湖地域の良き伝統・知恵を十分に考慮した豊かな文化を育めるようにすることをもって、琵琶湖と人とのより良い共生関係の形成を目指す。

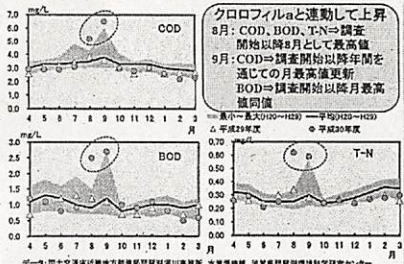
3 琵琶湖の保全および再生のための事項

(1) 水質の汚濁の防止および改善に関する事項 **新たな課題への対応の位置付け**

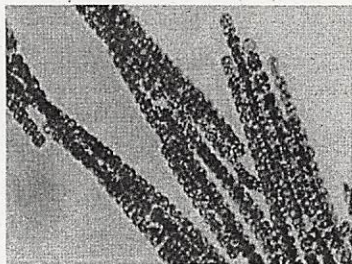
○琵琶湖南湖では、平成30年夏季に猛暑・少雨により藍藻類が増殖し、連動する水質の8月測定値が過去最高となるなど、気候変動による気象条件の変化が水質悪化を引き起こすことが懸念されている。

①このため、良好な水質と豊かな生態系が両立する琵琶湖の環境の実現に向け、気候変動の影響も視野に入れつつ、水質と生態系のつながりに着目した新たな水質管理手法を検討。

平成30年度南湖主要水質項目の経月変動（表層平均値）



平成30年夏季に南湖で大増殖した7ナベ・77ナイス



(2) 水源のかん養に関する事項 **関連する法律の改正状況を反映**

⑧○水源かん養保安林等の適正な配備を進めつつ、災害に強い森林づくりのための治山事業や森林整備事業等を推進するとともに、森林施業の集約化や早急に災害復旧事業等を行う観点から、**森林の経営管理の集積・集約化と合わせて林地境界明確化を推進するなど森林の保全および管理を推進。**

(3) 生態系の保全および再生に関する事項 **新たな課題への対応の位置付け/現行の課題が一定程度解消し、次のステップに進むもの/状況の変化を反映**

④○外来魚のオクチバスやブルーギルの生息量は、これまでの対策により減少してきたが、琵琶湖における生態系の保全や漁業への被害防止に向けた更なる対策の推進のため、多様な手法を組み合わせた効果的かつ徹底的な防除や再放流禁止のための取組を実施。

⑤○オオバナミズキンバイやナガエツルノゲイトウなどの侵略的な外来植物について、各種対策により、南湖では生育面積が減少しているが、北湖での生育面積の拡大、琵琶湖下流域や農地での新たな生育の確認、石組み護岸およびヨシ帯など機械駆除困難区域への対応が課題となっていることから、効果的で効率的な防除手法の確立に向けた取組を一層進めるとともに、取り残しのない駆除を実施。

⑥○ヨシ群落は、造成等により面積は回復しつつあるが、群落内のヤナギの巨木化によるヨシの生育不良などが見られることから、滋賀県琵琶湖のヨシ群落の保全に関する条例等に基づき、地域の特性に合わせて保全するとともに、造成・再生・維持管理を推進。

⑨○チャネルキャットフィッシュについては、捕獲数が急激に増加していることから、琵琶湖における生態系や漁業への被害が顕在化する前に、徹底的な防除を実施。

②○琵琶湖におけるプラスチックごみやマイクロプラスチックの増加を防止するため、プラスチックごみの発生抑制に向けた取組を実施。



(5) 農林水産業、観光、交通その他の産業の振興に関する事項 **新たな課題への対応の位置付け/関連する計画の改正状況等を反映**

- ③○アユの成長不良やセタジミの肥満度低下がみられることなど、漁場生産力の低下をうかがわせる事象が頻発していることから、漁場生産力向上に関する技術を開発。
- ⑩○農薬や化学肥料の使用量を減らすとともに農業濁水の流出防止や地球温暖化防止、生物多様性保全等の取組を行う「環境こだわり農業」や、その象徴的な取組となるオーガニック農業を推進。
- ⑪○農地や農業用排水施設、干拓施設の保全の推進、農業排水の循環利用の推進、農業濁水の流出防止、農業系廃プラスチックの排出抑制、家畜ふん尿の適切な管理と耕畜連携などによる利用の促進など琵琶湖や周辺環境への負荷削減を図る取組を推進。
- ⑫○環境こだわり農業や農業排水の循環利用、魚のゆりかご水田や琵琶湖漁業など「琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業」について、「日本農業遺産」の認定を農産物の付加価値向上や観光振興に活用しつつ、「世界農業遺産」の認定に向けた取組を推進。
- ⑬○林業経営の低迷等により適切な森林の整備が行われず、水源かん養等の多面的機能の低下が懸念されるため、**林業事業者の確保・育成を推進するとともに、森林資源の循環利用につながる林業の成長産業化を推進。**
- ⑭○湖上スポーツやナショナルサイクルルートに指定されたピワイチなど琵琶湖と親しむスポーツや、日本遺産として認定された「琵琶湖とその水辺景観 - 祈りと暮らしの水遺産」をはじめ、琵琶湖の特性を活かす、観光客等のニーズにあった観光を推進。

4 琵琶湖保全再生施策の実施に資する調査研究に関する事項 **新たな課題への対応の位置付け**

- ①○琵琶湖北湖の全層循環の未完了とそれに伴う北湖深層の貧酸素状態の長期化や、琵琶湖南湖における植物プランクトンの特異的な増殖等、気候変動の影響と考えられる未経験の水理・水質現象が確認されていることから、モニタリングを効果的に実施し、その結果を公表するとともに、気候変動適応策につながる科学的知見の収集を実施。
- ②○海洋で生態系への影響が懸念されているマイクロプラスチックは、琵琶湖でも検出されており、現時点では琵琶湖において懸念される影響は見られないものの、発生メカニズムの実態や長期的な視点での生態系への影響など、科学的知見は未だ十分ではない状況であることから、マイクロプラスチックに関する科学的な知見の収集等を実施するとともに、マイクロプラスチックに関するわかりやすい情報発信を実施。

5 琵琶湖保全再生施策に取り組む主体その他琵琶湖保全再生施策の推進体制の整備に関する事項 **現行の課題が一定程度解消し、次のステップに進むもの**

(1) 住民、事業者、特定非営利活動法人等の多様な主体による協働の推進 ⑦○多様な主体による琵琶湖の保全および再生に向けた主体的な取組を後押しし、適切な環境への関わりを創出するため、マザーレイクゴールズの推進体制を構築。

6 琵琶湖保全再生施策の実施に資する体験学習を通じた教育その他教育の充実に係る事項

(3) 広報・啓発の実施 ⑮○国民的資産である琵琶湖の多面的な重要性や、琵琶湖の保全および再生に関する事例について、県民をはじめ国内外への幅広い広報・啓発を実施。

7 その他琵琶湖の保全および再生に関し必要な事項 **状況の変化を反映**

⑮ (5) 新型コロナウイルス感染症への対応に関する事項 ○琵琶湖保全再生施策の実施に当たっては、必要に応じ、「新しい生活様式」を取り入れる。